Trinity

キズナエピソード\_東山陽彩\_05

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０

------------------------------------------

//ADV形式開始

//背景:渋谷

[エリザ]

「あれがトニオ？

ヘンな名前の割りに見た目は普通ね！

……一緒にいる女性と何か話してるみたいよ」

[陽彩]

「もう放っておこう……」

[エリザ]

「なにを言っているの。

ほら、行くわよ」

[陽彩]

「あっ！　襟を引っ張るな」

[エリザ]

「エリザだけに襟ですわ！」

[陽彩]

「寒い」

//場面転換

[エリザ]

「はじめまして！　ナントカっていう人！

夏期講習で忙しい中、

女性と何を楽しんでるのかしら？」

[とびお]

「えっ、誰――え、陽彩？」

[エリザ]

「ワタクシはエリザですわ！　覚えておきなさい！

ほら、アナタ陽彩と話して」

[陽彩]

「お、おい押すな……。

とびお……勉強で忙しいと思っていたが

女性と仲良くする余裕があってなによりだ」

[とびお]

「い、いや違うんだ陽彩！

これは……」

[女性]

「あら、あなた陽彩ちゃん？

見ないうちに大きくなったわね」

[陽彩]

「？　ぼくのことを知っているのか？」

[女性]

「覚えてないかしら？

私、陽彩ちゃんのご両親と友達で、

昔はよく会っていたのよ？」

[女性]

「まだ小さかったし、覚えてないわよね」

[陽彩]

「なんでそんな人が、とびおと会っている」

[とびお]

「それは……」

[女性]

「とびおくん、

すごい陽彩ちゃんのこと考えてくれてるのよ？」

[女性]

「ご両親との挨拶を繋いでもらえないかって、

人づてに知り合いを探して、アポを取ってきたの」

[エリザ]

「え、それはどういうことかしら？　もしかして、

そういうドロドロヌマヌマ関係がお好きなタイプなのかしら？

アナタ……意外とやるわね！」

[とびお]

「……いや、聞いてくれ。俺が陽彩の親と知り合えば、

今の親子の関係を

少しは縮められるんじゃないかと思ったんだ」

[陽彩]

「なっ！　おせっかいにも程があるっ！

誰もそんなことお願いした覚えはないっ」

[とびお]

「いいから聞けって！

俺と陽彩は血が繋がってもいないのに

親しくなれたじゃないか。それも知らない者同士なのに」

[陽彩]

「それはそうだが……」

[とびお]

「恐らく、知らない者同士だからこそ

摩擦なんて気にすることなく、

触れ合うことができたんだと思う」

[とびお]

「陽彩は人と普通に触れ合えるんだ！

ただ、頭がいいから考え過ぎるんだよ。」

[とびお]

「親にだって、

もっと、感じた通りに振る舞えばいいんだよ」

[とびお]

「なぁ、おせっかいなのは俺もわかってるけど、

一度親と会ってみないか？」

[陽彩]

「ん、んんんーー。」

[陽彩]

「…………はぁ。

分かった。

そこまで言うなら」

[とびお]

「ありがとう！」

[女性]

「ふふ、陽彩ちゃんいい人と出会えたわね！

じゃあとびおくんまた連絡するわね」

[とびお]

「はい、お願いいたします！」

[エリザ]

「ほら、ワタクシチャンサマの思った通りね！

話を聞けばなんともないと思っていたのよ！

感謝しなさい！」

[陽彩]

「あぁ、そうだな。

エリザが動いてくれなければ、こうはならなかった。

ありがとう」

[エリザ]

「……え、えぇ！

い、今なんて言いましたの？」

[エリザ]

「信じられない……

陽彩がワタクシにお礼を言うなんて！

恋は女をこうも変えるのね……！」

[エリザ]

「ハッ……

そういえば陽彩ったら最近、お肌の調子がいいわ――」

//↑ガタガタ震えてる感じ

[陽彩]

「前言撤回。

やっぱり面倒くさいやつだ」

//ADV形式終了

//5話END